

地域医療連携推進法人 雲南市・奥出雲町地域医療ネットワークの取組み

法人設立の経緯

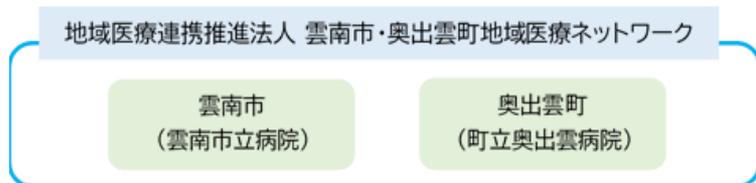
深刻な医師不足の状況にあった奥出雲町より雲南市に対し、雲南市立病院と町立奥出雲病院が連携し、医師をはじめとする医療職の確保を図っていくための方策について検討・協議する場を設けてほしいとの依頼があった。これを受け、島根県雲南保健所の参画をいただきながら協議をしていく中で、両病院が連携を強化して医師確保等に取り組んでいく手段としては島根県が推進している「地域医療連携推進法人」を設立することが最善策であるとの結論となり、法人設立に向け準備を進めることとなった。

法人設立の目的

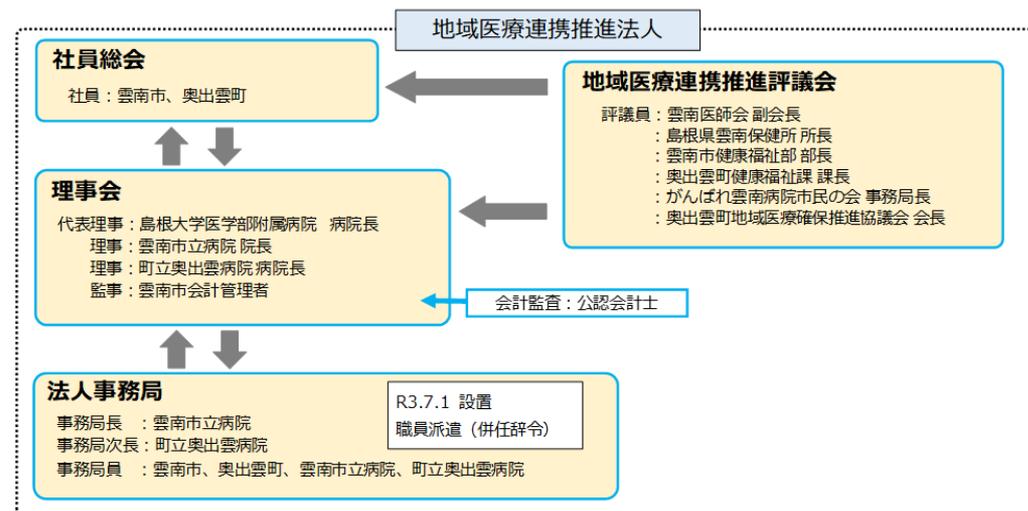
雲南市、奥出雲町では少子高齢化が加速度的に進み、住民の暮らしの基盤である医療提供体制については深刻な医師不足により脆弱な状況(※1)となっており、その改善が喫緊の課題であった。地域医療連携推進法人制度を活用することで市町を越えた圏域内での取組みを強化し、医療従事者の確保・育成を行い、医療提携体制の確保を図り、その上で、医療機能分担等を推進し、両市町において良質かつ適切な医療を効率的に提供できる体制を確保し、住民が安心して暮らせるまちをつくることを目的とした。

※1【参考：国が示した「医師偏在指数」は全国335区域中、雲南圏域は333位】

設立時法人構成



法人組織体制



法人の主な取組み内容

◆病院相互間の機能分担及び業務の連携

- 1) 医療従事者を確保・育成
- 2) 医療安全及び感染防止対策の充実、強化
- 3) 災害時の相互支援
- 4) 情報共有・活用
- 5) 共同研修
- 6) 島根県保健医療計画及び島根県地域医療構想を踏まえた機能分担
- 7) 共同購買

◆地域包括ケアシステムの推進

初年度の具体取組みと現状

■取組み① 《職員の相互派遣》

身分が異なる両病院の職員について、派遣協定や報酬などの手続きを簡略し、円滑に職員の相互派遣が図られるよう制度を構築する。

【計画】・派遣が想定される事例の洗い出し

- ・派遣手順の作成
- ・その他必要事項の調整
- ・覚書の締結

→上記項目について協議を行う。

■取組み② 《院内感染防止対策及び医療安全管理対策の強化》

法人設立を足掛かりに両病院で院内感染防止対策及び医療安全管理対策について連携していくこととし、本年4月より雲南市立病院が基幹型病院、奥出雲病院が連携型病院として届出を完了し、両病院で合同研修等具体的な活動に着手する。

【計画】・定期的な情報交換

- ・ICTラウンドの実施
- ・合同研修会の開催

→令和3年3月に中国四国厚生局へ施設基準の届出を行い、4月より加算の算定を開始した。新型コロナウイルス感染症の影響により活動に制限があるものの、合同カンファレンスの実施や情報交換を随時実施している。

初年度の具体取組みと現状

■取組み③ 《医療機器等の共同利用化》

両病院が所有する医療機器等について、必要時に借用する場合、迅速かつ手続き等が簡略できるように制度を構築し、医療機器等の有効活用と共同利用化を進める。

- 【計画】
- ・両病院が所有している医療機器を把握し、共同利用できる機器の模索
 - ・借用手続きなどのルール作り
 - ・共同調達の検討

→上記項目について協議を行う。

■取組み④ 《認定看護師の知識と技術の有効活用》

雲南市立病院に在籍する認定看護師の知識と技術を有効活用するため、その分野に関する研修会等を両病院で横断的に実施できる体制を確立する。

- 【計画】
- ・共同研修会の開催
 - ・同領域の認定看護師との共同活動の機会の検討
 - ・知識と技術を有効活用できる機会の検討

→上記項目について協議を行う。

■取組み⑤ 《新型コロナウイルス感染症対策に関する連携強化》

町立奥出雲病院の新型コロナウイルス感染患者受入れ態勢について、その技術的知識、経験等を有している雲南市立病院と連携し、その態勢を早急に整備する。また、検査応援体制や使用物品等の貸し借りが容易になるよう連携体制を整えていく。

- 【計画】
- ・連携項目の洗い出し
 - ・連携体制の整備
 - ・情報共有

→新型コロナウイルス抗原定量検査件数の増大に備え、雲南市立病院が町立奥出雲病院に対し、検査委託業務の契約を締結した。また、その対応のための実施フローを作成した。

■取組み⑥ 《周産期医療の機能（役割）分担》

町立奥出雲病院の分娩中止に伴う分娩の雲南市立病院への集約化や、妊婦健診等の周産期医療の分野について行政とともに連携し、今後、更なる支援体制を整えていく。

- 【計画】
- ・病院間協議の継続実施
 - ・担当者連絡会の実施

→雲南市立病院では奥出雲町からの分娩を受入れるため体制を整えた。このことより奥出雲町民の分娩件数が増大してきている。また、雲南市立病院より月1回奥出雲病院へ診療応援に出向いている。

初年度の具体取組みと現状

■取組み⑦ 《小児医療の機能（役割）分担》

町立奥出雲病院における小児救急の休日深夜対応等、小児医療の分野について今後、協力体制の構築が必要となるため、行政とともに連携し協議を進める。

- 【計画】 ・ 病院間協議の継続実施
- ・ 担当者連絡会の実施

→上記項目について協議を行う。

■取組み⑧ 《在宅医療の相互の連携》

それぞれの病院で事業展開している在宅医療について、患者情報の共有化や対象地域など相互に連携して実施できる仕組みづくりを行政とともに構築する。

- 【計画】 ・ 在宅医療の各サービスについて両病院の現状を共有し、外部との連携や感染対策、BCP等具体的手法を学び合う。
- ・ 市町の人口動態や医療ニーズを踏まえ、方向性を検討する。

→両病院データ及び雲南圏域のデータを抽出した。今後、このデータを活用し、具体的問題点や対策の協議を行う。

■取組み⑨ 《参加病院間の情報共有・活用》

医療情報を共有するため、しまね医療情報ネットワーク「まめネット」等を活用する。

- 【計画】 ・ まめネットの利活用方法の検討
- ・ 電子カルテの統一化に向けての検討

→上記項目について協議を行う。

◇その他取組み

両病院合同でハイブリット形式での「接遇研修会」を開催し、多くの職員の受講機会を設けた。

今後の方向性

雲南圏域における医療連携推進法人のスケールメリットを出すため、まずは雲南圏域内の自治体立病院に法人への参画を働きかける。その後、民間病院、雲南医師会等との法人参画の協議を進め、より有機的な連携体制を構築する。また介護・福祉分野との連携協議を行政とともに連携し進めていく。

また、島根県の補助金事業である「病床の機能分化に向けた医療連携推進コーディネーター配置事業」を活用し、地元医師会などとの在宅医療の分担や業務連携をし、雲南圏域の地域包括ケアシステムの構築に貢献していきたい。